



# e n d l e s s

## 山田正亮の絵画

2016年12月6日 [火]  
- 2017年2月12日 [日]

東京国立近代美術館  
1階企画展ギャラリー

①《Work C.73》1960年 油彩・キャンバス 東京国立近代美術館蔵

②《Work C.77》1960年 油彩・キャンバス 東京国立近代美術館蔵

——描き続けたまえ 絵画との契約である（山田正亮「制作ノート」より）

“描く”ことを自らの人生と一体化させ、美術の潮流から距離をとり、孤独の中で生涯描き続けた画家、山田正亮。東京国立近代美術館ではストライプの画面で知られる彼の画業を網羅した、初の本格的回顧展を開催します。5,000点近い作品から選りすぐった主要作200点超を、初公開の制作ノート群とともにご紹介。

### 本展の見どころ

- ◆没後6年を経て、満を持して開催される**初の本格的回顧展**。出品点数は油彩画約200点・紙作品約30点と山田の個展史上最大規模です。さらにスケッチが描きこまれそれ自体の鑑賞性も高い、50冊以上にもなる制作ノートを初公開します。これらは一見、きわめて論理的に練り上げられたかのような作品の裏に隠された、画家の苦闘のドラマを垣間見せてくれます。
- ◆山田が生涯に残した作品は約5,000点。一点一点が違う表情を見せる膨大な作品群は、5,000回の苦闘から生まれる5,000回の新発見を物語っています。それはまるで、様々な情報が溢れ、価値観が移りゆく現代において、一途であることの豊かさを見せつけるかのようです。
- ◆近年、戦後日本美術への新たな視座をもたらす作家として**海外からの注目**も高まっており、ロンドンのアートフェア「Frieze Masters」でも個展開催(2016年10月)が予定されています。
- ◆最新型高演色性LED照明を用いて空間を演出。山田がこだわり続けた色彩の美しさをご堪能いただけます。また会場内には、実物を通して**アトリエの雰囲気**が**味わえる**スペースも(写真撮影可)。

## イントロダクション

もし仮に生きるということが、つきつめると起きて食べ寝ることの繰り返しであるならば、画家山田正亮(1929-2010)は、「絵画と契約する」ことによって、その生きることに絵を描く営みをも加えてしまった人間です。50年以上ものあいだ、絶え間なく描き続けられた絵画作品の数は、約 5,000 点。彼は世俗や流行に背を向け、誰かにおもねることもなく、東京の郊外に構えたアトリエで、ひとりで制作を続けたのです。その持続のなかから生み出された作品群は、1978 年、康画廊(東京)での個展で、驚きと称賛をもって迎えられ、以降、彼は、現代絵画の遅れてきた寵児として高い評価を受けるようになりました。2005 年に府中市美術館で個展が開かれたほか、近年では、欧米圏でも注目を集めつつあります。

初めての本格的な回顧展となる本展では、生前公にされることのなかった膨大な量の制作ノートの解析や、近年進められてきた専門家らによる諸研究を踏まえ、日本の戦後美術において唯一無二の活動を見せた山田正亮の全体像をご紹介します。各年代の主要な作品を網羅することはもちろん、多様な探究の足跡をうかがわせる紙作品、制作ノートなども展示することで、山田正亮の作品総体の、複雑で魅惑的なあり様を体感していただける場を目指します。



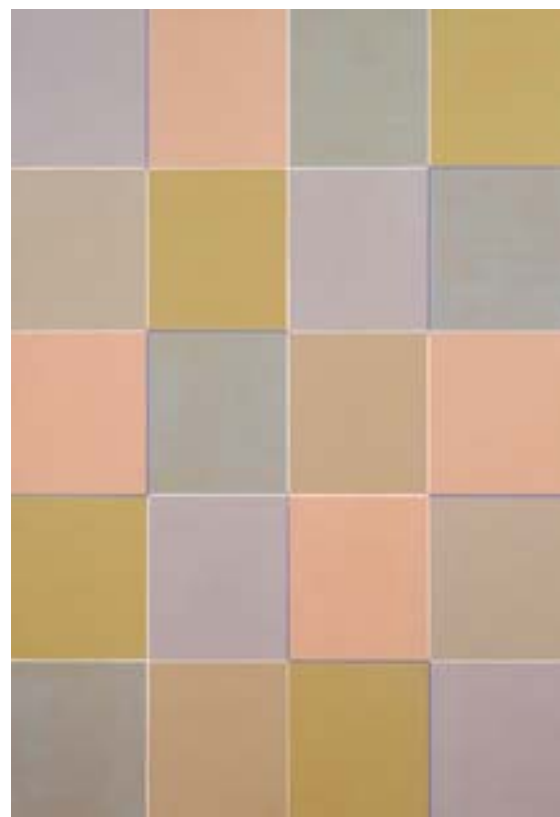
③ 《Work F.116》1992 年  
油彩・キャンバス

## 会場構成

山田正亮の個展史上最大規模の約 230 点を展示。彼の作品の静と動、抑制と過剰の両面を対比しつつ、弛緩することのないリズム感とメリハリをもった体験の場を実現します。また、冒頭では 50 年以上に及ぶ彼の画業の変遷を一望していただけるよう、本物の作品を組み込んだ、様式展開の見取図をご覧ください。最新型高演色性 LED 照明を用いた空間演出(協力:東芝ライテック株式会社、東芝エルティエンジニアリング株式会社、灯工舎)や、実物が置かれアトリエの雰囲気を感じられるスペース(写真撮影可)もお楽しみください。

展示設計:西澤徹夫(西澤徹夫建築事務所)

チラシ、ポスター、カタログ、  
会場グラフィック:大溝裕(Glanz)



④ 《Work D.259》1977 年  
油彩・キャンバス



⑤ 東京都国立市の山田正亮のアトリエ

## 山田正亮作品の3つのシリーズ

### 1. Still Life (1948-1955)

終戦後間もない時期から7年間継続した静物画の連作。「記憶から描いた」と山田は述べています。

年を経るにしたがって、瓶や果物といった個別の要素は徐々に解体されはじめ、それらの「あいだ」にある空間と溶け合って画面全体の一体性が増していきます。



⑥ 《Still Life no.64》1953年 油彩・キャンバス

### 2. Work (1956-1995)

「Work」シリーズは、3つのシリーズのうち、継続期間、点数ともに群を抜いており、山田正亮の中心的作品群といえます。そのタイトルは1950年代をB、1960年代をC、1970年代をD、1980年代をE、1990年代をFとして、制作の順に対応するとされる番号が付されています。たとえば、《Work C.77》は1960年代に描かれた77番目の作品ということになります。紙作品には《Work Ep.447》というように「p」が付された別系統の番号が与えられています。

「Work」の画面の基本的な外見は、時代を経るごとに徐々に、そして時に突然に変貌していきますが、ほとんどの場合、キャンバスの形態そのものから派生する垂直線と水平線をその基調にしており、ストライプ、クロス（十字形）、グリッド、あるいはそれらの組み合わせから成り立っています。かなりシンプルな枠組みにもかかわらず、色彩、筆触の精妙な使い分けや、絵具の積層の多様なヴァリエーションなどによって、作品ごとに異なる効果と表情が生まれています。

1995年、山田正亮は「Workの系列はその円環を閉じた」として、40年続いたその制作に自ら終止符を打ちました。



⑦ 《Work B.125》1956年 油彩・キャンバス 宇都宮美術館蔵



⑧ 《Work C.92》1961-62年 油彩・キャンバス 横浜美術館蔵

### 3. Color (1997-)

「Color」は、「Work」の終了後、左眼の手術を経た山田正亮が「まだやり残したことがある」として始めたシリーズ。画面のほぼ全体が単一な色彩で塗りこめられていますが、画面の周縁部分には下層にある別の色彩がのぞき、微妙なニュアンスを見せています。制作年代は「1997-」などと示されており、完成、未完成の非決定性を暗示しています。



⑨ 《Color no.98》1999-年 油彩・キャンバス

#### 関連イベント

##### ●講演会

1月15日 [日] 14:00-15:30  
石田尚志 (映像作家・画家)

1月29日 [日] 14:00-15:30  
本江邦夫 (多摩美術大学教授)

2月11日 [土] 14:00-15:30  
坂本夏子 (画家)

いずれも講堂 (地下1階) にて、  
開場は開演 30 分前、  
申込不要、参加無料 (先着 140 名)

##### ●endless ギャラリートーク

12月18日 [日] 10:00-17:00

開館時間から閉館時間まで、本展カタログの寄稿者たちが、リレー形式でトークを行います。詳細は美術館ホームページなどでお知らせします。

「endless 山田正亮の絵画」会場内にて、申込不要、要観覧券

##### ●ギャラリートーク

12月9日 [金] 18:30-19:30

12月23日 [金・祝] 14:00-15:00

1月20日 [金] 18:30-19:30

2月3日 [金] 18:30-19:30

中林和雄 (当館副館長/本展企画者)

「endless 山田正亮の絵画」会場内にて、申込不要、要観覧券



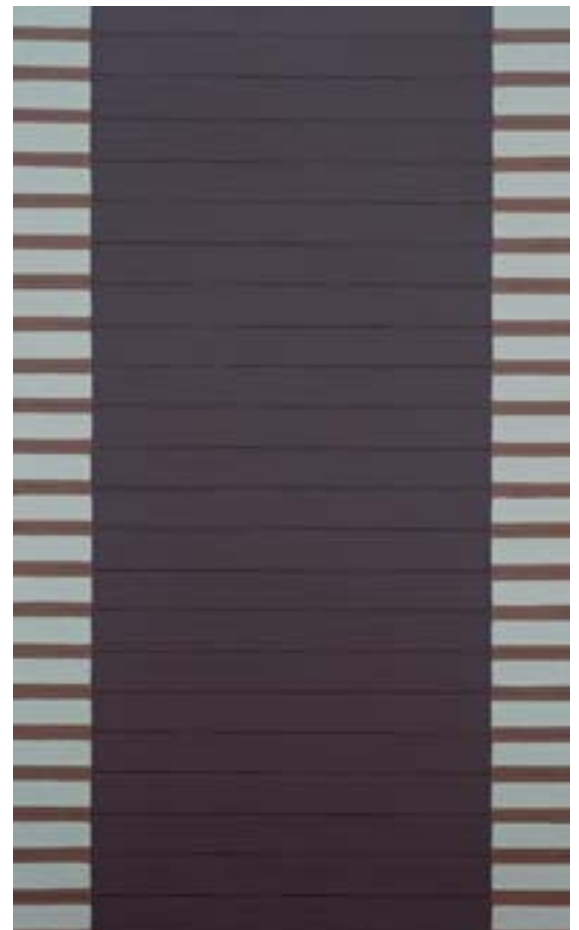
⑩ 《Work Ep.447》1984年 水彩・紙

## 略年譜

- 1929 (昭和 4 年) 東京府荏原郡に生まれる (本名: 正昭)
- 1943 (昭和 18 年) 東京府国分寺町の陸軍兵器行政本部製図手養成所に入所
- 1944 (昭和 19 年) 同養成所助教となる  
陸軍兵器行政本部委託生として、東京都小金井町の東京都立機械工業学校第二本科機械科入学
- 1945 (昭和 20 年) 東京市淀橋区諏訪町の自宅が空襲で焼失。田無、八王子で相ついで空襲にあう  
終戦。陸軍兵器行政本部退職
- 1949 (昭和 24 年) 第 1 回日本アンデパンダン展に出品 (以後継続して出品)
- 1950 (昭和 25 年) 第 14 回自由美術家協会展に出品 (以後継続して出品)
- 1958 (昭和 33 年) 教文館画廊で個展
- 1962 (昭和 37 年) 養清堂画廊で個展
- 1963 (昭和 38 年) 養清堂画廊で個展
- 1964 (昭和 39 年) 南天子画廊で個展
- 1965 (昭和 40 年) 椿近代画廊で個展
- 1966 (昭和 41 年) 村松画廊で個展
- 1968 (昭和 43 年) 画廊クリスタルで個展
- 1974 (昭和 49 年) 「日本現代美術展<伝統と現代>」(デュッセルドルフ) に出品
- 1978 (昭和 53 年) 康画廊で個展、三会期に分け、これまでの作品の全体像を展示
- 1979 (昭和 54 年) 佐谷画廊で個展 (以後継続して開催)
- 1987 (昭和 62 年) 第 19 回サンパウロ・ビエンナーレ展に出品
- 1994 (平成 6 年) 「戦後日本の前衛美術」(グッゲンハイム美術館) に出品
- 2005 (平成 17 年) 府中市美術館で個展
- 2010 (平成 22 年) 胆管がんで死去
- 2016 (平成 28 年) Frieze Masters (ロンドン) で個展



① 山田正亮ポートレート 1956 年



② 《Work C.216》1964-65 年 油彩・キャンパス

## 開催概要

タイトル (日) (英)	endless 山田正亮の絵画 endless: The Paintings of Yamada Masaaki
読み方	えんどれす やまだまさあきのかいが
会期 会場	2016年12月6日 [火] - 2017年2月12日 [日] 東京国立近代美術館 1F 企画展ギャラリー 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
主催	東京国立近代美術館、京都国立近代美術館
協力	一般社団法人山田正亮の会、東芝ライテック株式会社、東芝エルティエーエンジニアリング株式会社
開館時間	10:00 - 17:00 (金曜は 20:00 まで) 入館は閉館の30分前まで
休館日	月曜日 (1/2、1/9 は開館)、年末年始 (12/28 - 2017年1/1)、1/10 [火]
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b 出口より 徒歩 3分
観覧料	一般 1,000 (800) 円、大学生 500 (400) 円 * ( ) 内は 20 名以上の団体料金。いずれも消費税込 * 高校生以下および 18 歳未満、障害者手帳をお持ちの方とその付添者 (1 名) は無料 * キャンパスメンバーズ加入校の学生・教職員は学生証または教職員証の提示で団体料金で ご観覧いただけます * 本展の観覧料で入館当日に限り、同時開催の所蔵作品展「MOMAT コレクション」(4F-2F)、 「瑛九 1935-1937 闇の中で「リアル」をさがす」(2F ギャラリー 4) もご観覧いただけます
お問い合わせ	03-5777-8600 (ハローダイヤル)
公式サイト	<a href="http://www.momat.go.jp/am/exhibition/yamadamasaki/">http://www.momat.go.jp/am/exhibition/yamadamasaki/</a>
同時開催	◆ 2016年11月22日 [火] - 2017年2月12日 [日] 「瑛九 1935-1937 闇の中で「リアル」をさがす」ギャラリー 4 (2F) 所蔵作品展「MOMAT コレクション」 所蔵品ギャラリー (4F-2F)  * 上記開館時間に加え、所蔵品ギャラリー・ギャラリー 4 にて開催の展覧会は 土曜 20:00 まで開館しております。  観覧料：一般 430 (220) 円、大学生 130 (70) 円 * ( ) 内は 20 名以上の団体料金。いずれも消費税込 * 高校生以下および 18 歳未満、65 歳以上、「MOMAT パスポート」をお持ちの方、友の会・ 賛助会会員、MOMAT 支援サークルパートナー企業 (同伴者 1 名迄。シルバー会員は本人のみ)、 キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方とその付添者 (1 名) は無料 * 無料観覧日：1/2 [月]、2/5 [日] 所蔵品ギャラリー・ギャラリー 4 にて開催の展覧会のみ

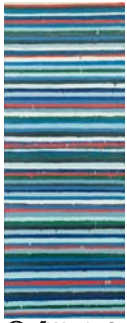
### ※巡回スケジュール

2017年3月1日 [水] - 2017年4月9日 [日] 京都国立近代美術館

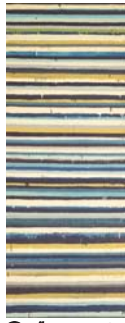
### 【報道関係お問い合わせ先】

広報担当：三輪紘子、紀太(きだ)みどり 内容：中林和雄(当館副館長・本展企画者)  
tel：03-3214-2564 fax：03-3214-2576 e-mail：pr@momat.go.jp

広報用貸出画像一覧



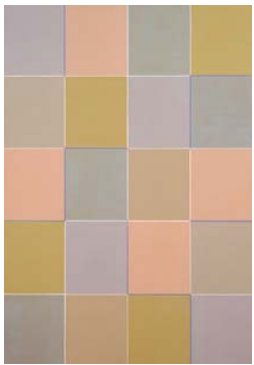
① 《Work C.73》1960年  
油彩・キャンバス  
東京国立近代美術館蔵



② 《Work C.77》1960年  
油彩・キャンバス  
東京国立近代美術館蔵



③ 《Work F.116》1992年 油彩・キャンバス



④ 《Work D.259》1977年 油彩・キャンバス



⑤ 東京都国立市の山田正亮のアトリエ



⑥ 《Still Life no.64》1953年 油彩・キャンバス



⑦ 《Work B.125》1956年  
油彩・キャンバス  
宇都宮美術館蔵



⑧ 《Work C.92》1961-62年  
油彩・キャンバス  
横浜美術館蔵



⑨ 《Color no.98》1999-年 油彩・キャンバス



⑩ 《Work Ep.447》1984年  
水彩・紙



⑪ 山田正亮ポートレート 1956年



⑫ 《Work C.216》1964-65年 油彩・キャンバス